

オーディオインターフェイス

オーディオインターフェイスとは？

コンピューターに接続して
音の入出力を拡張するための機材です。

マイクや楽器などを接続して外部の音を取り込んだり
DAW内部の音をスピーカーやヘッドフォンなどに出力します。

オーディオインターフェイスを使うことで
以下のような恩恵があります。

- 高品位なサウンドを入力・出力できる
- たくさんの入力・出力信号を扱える

高品位なサウンドを入力・出力できる

単純に言えば「音がいい」ということです。

オーディオインターフェイスは
音の入出力専用で作られた機材です。

品質や価格帯によっても左右されますが
少なくともパソコン本体についている簡易的なものに比べて
得られるサウンドは段違いに良くなります。

たくさんの入力・出力信号を扱える

オーディオインターフェイスには
複数の入力・出力端子が搭載されているものも多数あります。

オーディオインターフェイスの入出力の数を表す言葉として
「●in / ●Out」という表現が使われ
そのまま入出力数を表します。

この数字が多いほど、たくさんの信号を入出力できます。

オーディオインターフェイス選びの着目ポイント

オーディオインターフェイスを選ぶ際の着目ポイントは以下の4点です。

- 入出力数
- コンピュータへの接続方法
- マイクプリの有無および数
- ヘッドフォンアウトの数

入出力数

オーディオI/Fによって、入出力の数はさまざまです。

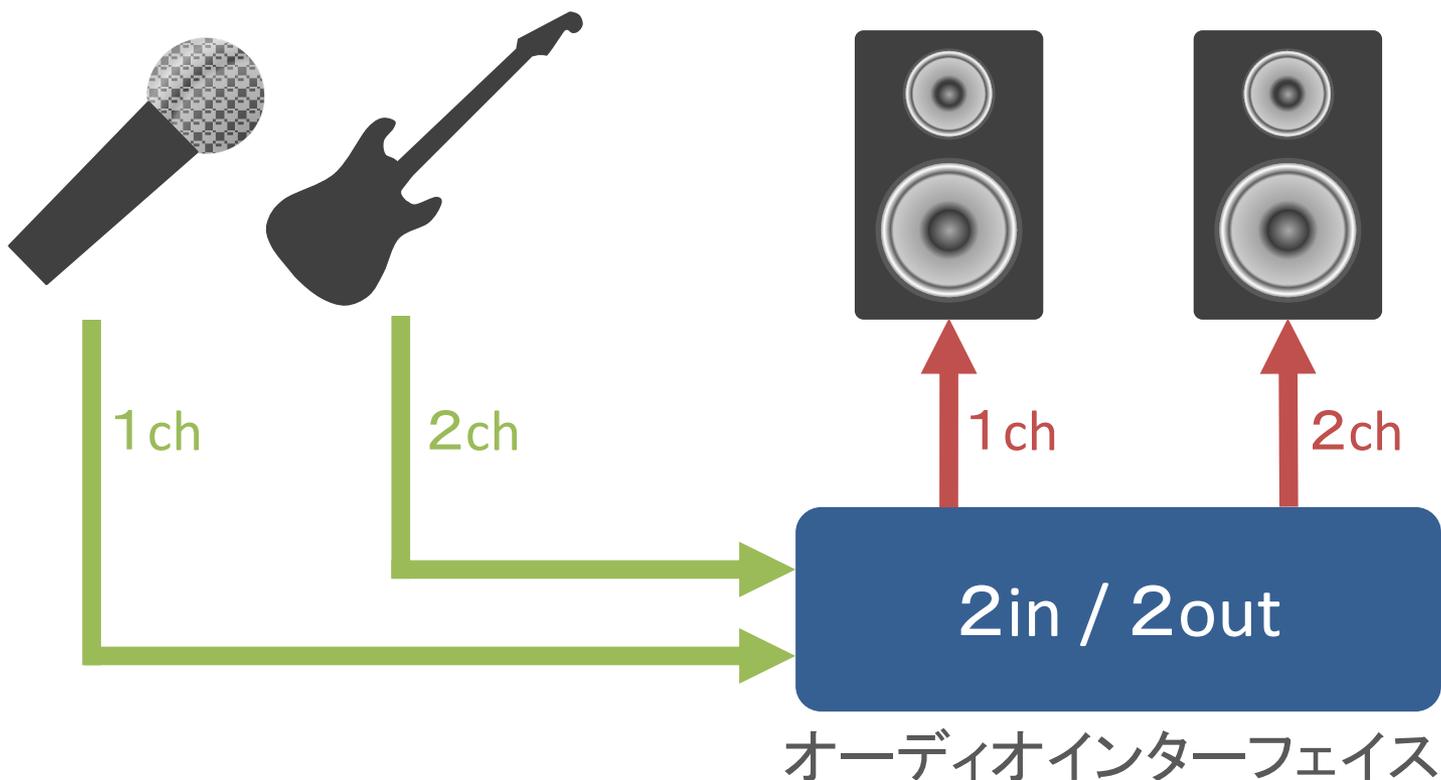
「2in / 2out」といった必要最低限のものもあれば
「24in / 28out」といった大規模なものまでピンキリです。

個人の環境によりけりですが
できれば「4in / 4out」程度はあったほうが何かと重宝する。

あまりにも多すぎると持て余してしましますが
手持ちの機器を接続しても若干余る程度のもの
を選んでおくと安心でしょう。

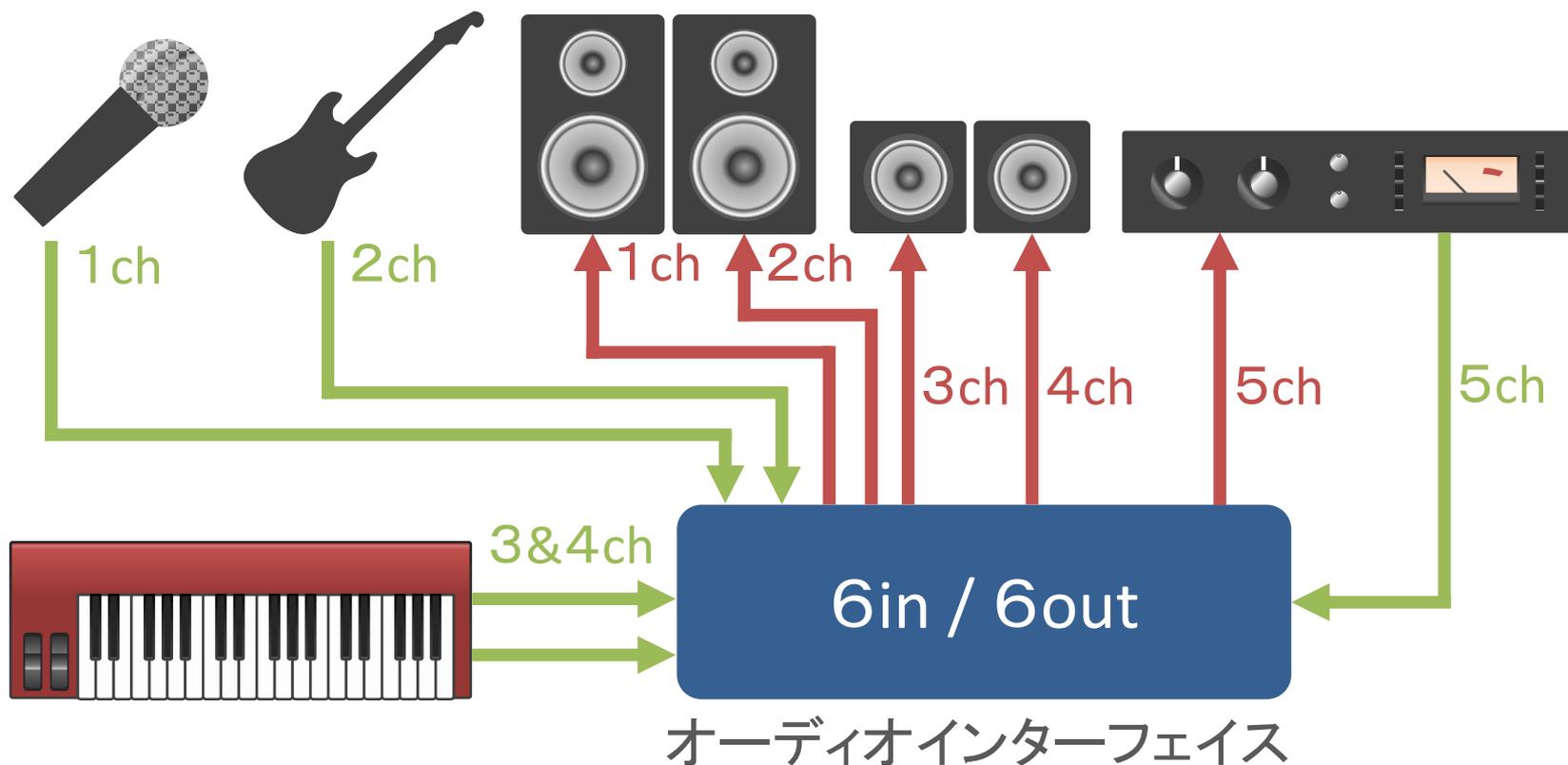
2in/2outのインターフェイスの場合

入出力が少ないとシンプルな構成になる



6in/6outのインターフェイスの場合

入出力が多いと色々な構成を組むことが可能



コンピュータへの接続方法

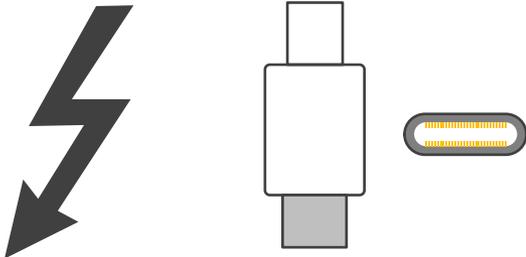
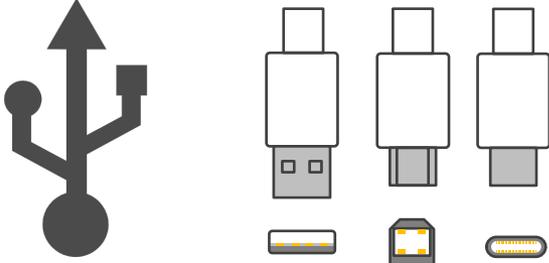
接続する方法には、いくつかの規格が存在します。

現在、主流となっているのは以下の2種類です。

- Thunderbolt接続
- USB接続

それ以外にも、古い方式としてFireWire接続
逆に新しい方式としてLANケーブルを使ったAVB接続など
多数存在しますが、初心者向きではないので
まずは2種類を覚えおけばよいでしょう。

Thunderbolt と USB の違い

	Thunderbolt	USB
ロゴ 端子		
特徴	IntelとAppleが共同開発したデータ伝送技術規格。 基本的に、USB接続よりも高速で多機能だがケーブル自体が比較的高価でApple製品以外に普及していない。	世界で最も普及しているデータ伝送技術規格。 安価で手に入れやすく汎用性もとても高いがコネクタ形状が複数あり多岐に渡る。

マイクプリアンプの有無および数

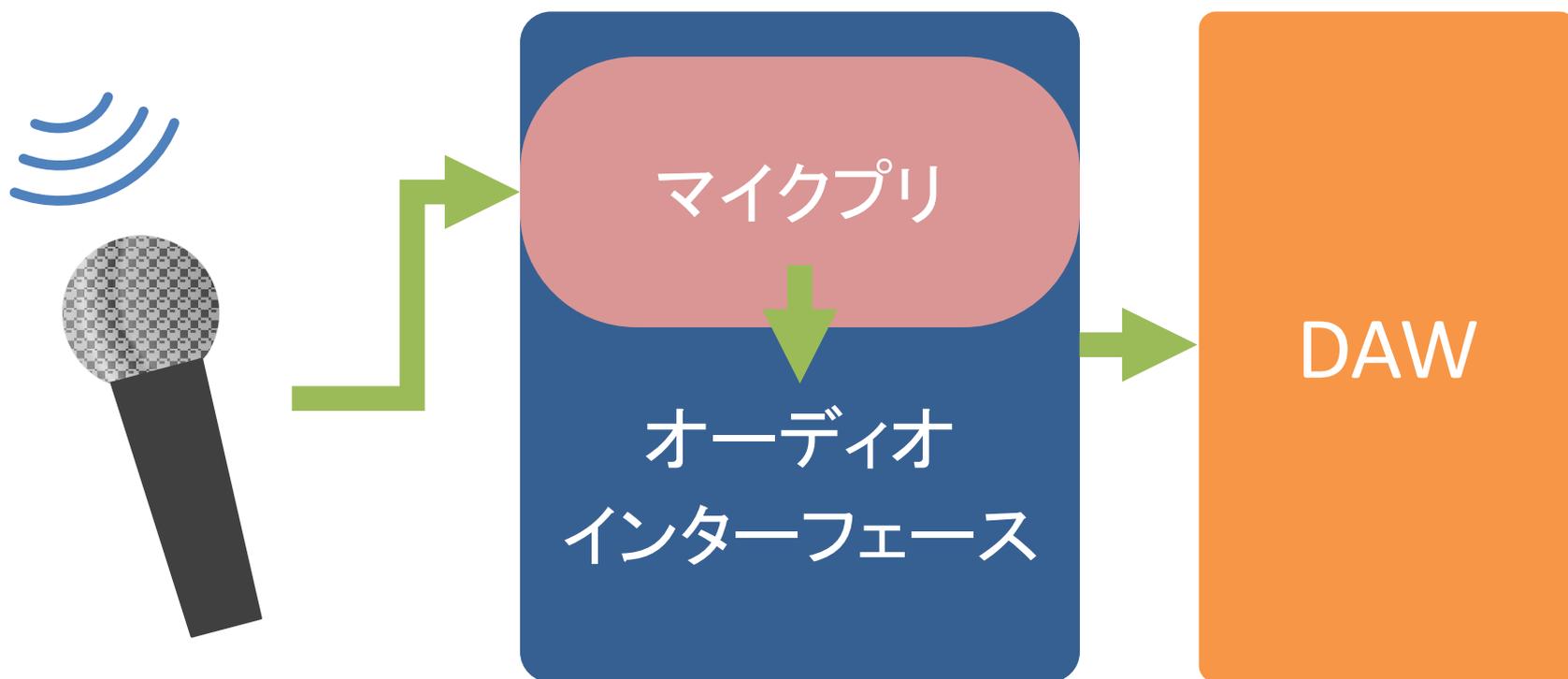
ヴォーカルやアコースティック楽器など電気的な出力端子をもたない音源を録音するにはマイクが必要になり。

ですが、マイクからの入力信号は非常に小さいためそれを増幅させるための装置が必要になります。

それが「マイクプリアンプ」で別名「ヘッドアンプ(HA)」と呼んだりもします。

マイクプリとは？

マイク自体の入力はとても小さいため、その信号を増幅させる装置
昨今のインターフェイスでは標準装備されている



ヘッドフォンアウトの数

スピーカーから音が出せない環境において
複数人で音を聞きたい場合は
ヘッドフォンアウトが2つ以上ついていると便利です。

特に、ヴォーカリスト、ギタリストなど
プレイヤーさんを招いて録音する場合には
マストの機能となります。

レコーディングなどを考えている方は
ヘッドフォンアウトが2系統以上のモデルを選びましょう。

ヘッドフォンアウトが複数ある利点

主に宅録などでは、演者とDAWを操作する人でそれぞれ音を聴ききながら録音することができる。

